

結城市統計グラフ作品展から

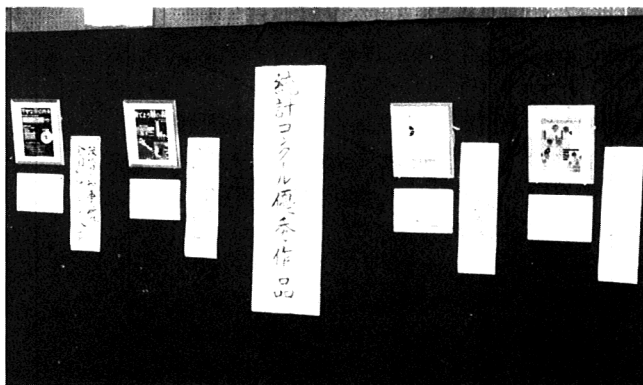
このたび全国統計コンクールにおきまして、第三部「育てよう緑の森」が特選の栄冠を得、更に第二部において2点が入選しましたことは、非常に光栄とするところでございます。これは、県統計関係者はもとより統計担当諸先生方の長期にわたる指導の積み重ねの結果であると思えます。茲に関係者各位の御苦労に対しまして改めて感謝の意を表する次第でございます。これを機会に統計思想の普及向上をはかるため、結城市統計グラフ作品展を11月18日から20日まで3日間中央公民館で開催いたしました。

これは、全国統計コンクールで栄えある特選に輝いたこと、更に県の統計コンクールに多数、入賞をしたので、これらの作品を一般市民や市内の小中学生に見てもらい、統計グラフの表現技術や統計の重要性を理解してもらおう意味で開催したわけです。

11月は、結城市文化祭の行事も計画されていたことから、この一環として実施したら効果があるのではないかと考えまして、統計係が中心となり児童、生徒の作品を公募している関係課を調べました。調べてみますと、選挙、交通安全、水道、下水道、福祉等の関係ポスター等があることがわかりました。このため当該関係各課に呼びかけまして、全作品を展示して、一般市民に公開したらどうか協議したところ各課の賛同を得ましたので教育委員会に文化祭の行事の一環として、組み入れていただきました。特別に予算措置があるわけでもないので展示の準備や消耗品等の費用は関係担当課で便宜をはかることにしました。

展示の内容ですが、統計図表260点、交通安全ポスター539点、明るい選挙啓発ポスター107点を展示することになりました。名称も「第18回結城市文化祭児童生徒ポスター展」として実施し、会場は、結城市中央公民館の1階から3階までの7室を利用することになりました。展示の方法については、統計図表と他のポスターの紙の大きさが異なるため配置等に苦慮した面もありましたが、創意工夫しまして計画が決定しました。

この作品展が出来るだけ多くの人達に見てもらうため、そのPRにも苦心し、文化祭ポスター、広報紙等には勿論のこと、初めての事でもありましたので手作りのチラシを



優秀作品コーナー

作り、各学校の児童生徒全員に配布し、父兄と一緒に作品を見て貰うよう手配しました。幸いに、その効果がありまして、沢山の人が参り好評でした。

当時の会場の状況を1コマ申し上げますと、

「俺達の孫の絵はどこにあるんだんべー」何の作品ですか。「俺、知らねえ、孫が見てこうと言うから見にきたんだが、いっぱいあってわかんねえな」3階までいろんなポスター、作品がありますから、ゆっくり良く見ていって下さい。「そだなあ一見ていかないと怒られるからなあ」「あの一、うちの兄ちゃんが統計で知事賞を貰ったんだよ」と母親らしき女性の声、それはおめでとございました。伝統を守るか桑畑多産地ですね。「そだよ、あんたよく知ってるねえ」。統計の担当係ですから。

以上が作品展の様子であります。和やかな雰囲気の中でいろんなポスターをそれぞれの角度から鑑賞してもらい、好評裡に終了できました。賞をとる、とらないではなく、各々が、自分の考え方を技術的に表現する姿勢を養うことが大切であり、これを長い目で育てる努力が肝要であると思っております。

関係担当者は作品展が好評であったので、準備段階の苦労も忘れ、やって良かったという感激に胸をふくらましたことだと思っております。本年の結果を踏まえ、来年は、事前の準備を早めに行い、しっかりとした計画をたて会場の配置、展覧期間等を十分検討し、更に一層充実した作品展にしようと思意を燃やしているところです。

次に本年の統計コンクール作品募集の経過を概略申し上

げますと、本年5月に私をはじめ係長が異動により代ったばかりでしたので、昨年の実施要項を資料に検討しながら進めました。

募集方法は、各小中学校へ文書でもって作品募集の協力依頼し、作品の応募をいただきました。入選者の表彰は、入選と努力賞に分けて、それぞれ記念品(350円以内)と賞状を全員に贈りました。審査の方法は各学校長に協力を要請し、統計教育研究部の先生にご参集を願ひ審査会を行いました。各学校から集まった沢山の作品の山を前にして、期待と不安の入り混った複雑な気持ちで臨みました。審査会で入選した作品が県統計コンクールに出品されますが、その他の作品は、賞状と記念品を添えて児童生徒に作品と一緒に返すことになりました。

一生懸命作られた作品をそのまま、戻すことも惜しいような気がしましたので、これらの作品を市民の方に見て貰ったら喜ばれるのではないかと提案したわけでありです。作品展を開いても経費のかけようで出来ることだし、上手下手はあっても作品展を児童生徒がみるにより大変勉強になると考えたからです。幸いに審査員の方々の賛同を得ましたので、統計図表作品展として独自に検討していましたが、前述のような結果になったわけです。

市の審査会は9月2日に残暑厳しい最中でしたが、中央公民館において審査を行い、次のような審査結果ができました。

第1部……出品点数 117点うち入選点数38点

第2部……出品点数 130点うち入選点数38点

第3部……出品点数 17点うち入選点数17点

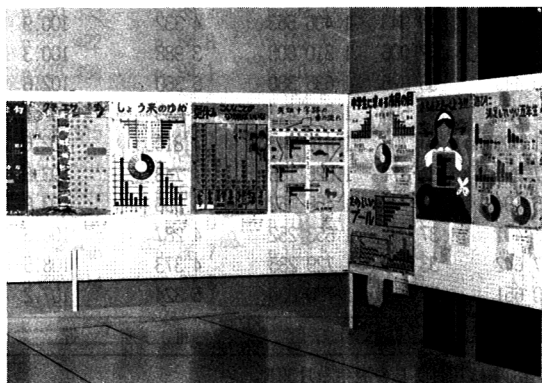
となり、昨年と比較いたしまして出品点数で17点、出品者数で61名の増加となりました。一般市民からの応募作品は、1点もなく残念でありましたが、統計に対する理解を更に深め、統計図表の表現技術の向上をはかるためにも、この児童生徒の作品をもとに、統計図表の技術向上に今後とも努力する所存であります。

本年の県西地区審査会においては、当市の入選作品93点のほか133点が通過し県のコンクールに出品されたわけがあります。茨城県統計コンクールでは、知事賞2点(第2部第3部)、茨城県議長賞1点(第3部)、茨城県統計総裁賞5点(第2部2点第3部3点)、佳作18点(第1部5点第2部10点第3部3点)、以上34点が入選したほか、優秀校賞として小学校部で2校、中学校の部で2校が選ばれましたことは、学校関係者はもとより、統計を担当しているものとして、この上ない喜びであります。この立派な功績に恥じないように、今後尚一層奮励する覚悟であります。

統計グラフコンクールにおいて、賞を取ることも技術の向上につながりますが、多くの児童生徒が作品の出展に参加し、統計図表の作成の中で、社会の動きと実態を体験的に勉強されれば、一番良いと考えています。今年の実績をもとに来年は、更に多くの児童生徒が統計図表コンクールに出展し、統計思想の普及向上になりますよう各学校の諸先生と相談しながら統計教育研究部の組織運営の向上をお伝えし、児童生徒に対するアドバイス、技術の指導体制等を充実していきたいと考えています。以上が作品展の経過及び作品取りまとめの内容と私の所感を申し上げます。

最後に県統計課並びに市内各学校の関係者の皆様にご指導を賜りましたこと、この段、厚く御礼を申し上げます。今後共、尚一層のご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

(結城市総務部企画課課長・片山 実)



「あった、孫の絵だ!」・こんな声も飛び交った展示会場